

打越遺跡 第47地点

遺跡名	打越遺跡
よみがな	おっこしいせき
調査地点	第47地点
主な時代	縄文時代前期（約6500～5500年前）、中近世（約600～150年前）
調査地	富士見市東みずほ台3丁目24番2
調査面積	762.33 m ²
調査期間	令和5年1月23日～2月8日
調査内容	<p>【確認された主な遺構】 縄文時代前期竪穴住居跡1軒、中世地下式坑1基、中近世土坑8基、中近世性格不明遺構1基 等</p> <p>【出土した主な遺物】 縄文土器（深鉢）、陶磁器片</p> <p>【概要】</p> <p>打越遺跡は武蔵野台地縁辺部に位置し、富士見江川に開析された谷津の南側台地縁辺部に立地しています。この谷津は縄文時代前期には、海進により汽水域の湾になっていたと想定されます。</p> <p>当遺跡は縄文時代早期から前期を中心とした大規模な縄文時代の集落跡で、これまでの調査で多数の当該期の竪穴住居跡等が確認されてきました。今回の調査でも縄文時代前期の竪穴住居跡1軒が確認され、住居跡内から多くの縄文土器片が出土しました。また、多数の配列する柱穴が確認され、中近世の掘立柱建物跡を検出することができました。</p>



確認された縄文時代前期の竪穴住居跡



竪穴住居跡から出土した多量の縄文土器片



出土した縄文土器片の器面に残る縄目



確認された中近世の掘立柱建物跡の柱穴群